年頭所感

山口県医師会長　加藤智栄

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

2020 年 1 月 15 日に本邦第一例目の感染者の報告がなされて以来、一昨年、昨年と新型コロナウイルス感染症に振り回された感があります。昨年は第 6 波、第 7 波に見舞われ、第 7 波はオミクロン株 BA.5 によるもので、県内では、それまでの 10 倍規模の大きな感染状況でした（新規感染者数のピークは 8 月 18 日 3,494 人、療養者のピークは 8 月 26 日の 2 万 3,694 人）。重症化の頻度は低いが、感染力が絶大で、小児から高齢者までの全年齢層が罹患し、高齢者施設や医療機関もクラスターに見舞われました。また、医療スタッフにも感染者が出て、少ないスタッフで医療を継続しなければならなかったり、病棟閉鎖や外来休止の対応を余儀なくされたりしました。無症状者・軽症者が圧倒的に多く、95% ぐらいが自宅療養者又は宿泊療養者で、入院患者は最大病床利用率が 62.7% で踏みとどまりました。発熱外来や診療・検査外来で対応していただいた先生方、入院治療で対応された先生方、ワクチン接種で貢献された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

また、昨年は、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高騰にも見舞われました。国はこの対策として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を創設し支援を打ち出しました。県医師会はこの交付金を活用した支援を県に強く要望し、11 月補正予算で医療機関に対する支援を得ることができました。

10 年間の県医師会における経験で、最もしなければならないと思ったことは、若手医師不足の解消です。何をするにも、人がいなければ上手くいきません。郡市医師会との懇談会や地域の病院との懇談会を持つと、どの地域でも医師が不足し、時間外救急が回らないとの話が出てきていました。実際に 55 歳以上の医師は比較的多くいますが、若手医師の不足は、医療費亡国論に端を発した 1985 年から 2007 年までの 22 年間における医学部の定員削減と、2004 年に開始された新医師臨床研修制度で大学の求心力が弱まり、地方から都会への若手医師の流れの加速のためと分析しています。県医師会では、山口県での医師の働く環境が良くなるように、時間外救急に携わる医師にインセンティブを付与するような制度を創出するように県・行政に働きかけています。また、医師事務作業補助者の活用促進やスキルアップに向けた取り組みを 2014 年から継続して行っており、勤務医の負担軽減に役立っています。2024 年から開始される医師の働き方改革も、人が増えることによってより良い方向での改革が進むと考えますので、なんとしても、若手医師を増やさなければなりません。医業継承も本格始動しなければなりません。医業承継に関しては、3 年目の事業になりますが、マッチングを成功させ地域に必要な医療機関の存続を目指します。

日本医師会の代議員会で、松本日医新会長は医学部卒業後の 5 年間は会費免除の方針を出されましたので、県医師会でも会費の賦課徴収規程を変更し、より多く若手医師が医師会活動に参加してもらえるようにしました。

山口大学医学部との交流も、ごく限られたものになっていますが、昨年は山口大学医師会と県医師会との懇談会を開催し、県医師会活動への理解を得るとともに県医師会が大学に対して、可能な研究支援について協議をいたしました。今後、より一層連携を強め、山口県の医療を良くしていきたいと考えています。

以前より、医療が健全に発展するためには、どうしたらいいかを考えていました。最先端の良い医療を提供するためには、日本という国が経済発展するしかないと考えています。経済が好転し、保険収入が増加しないことには最先端の医療を取り入れていくことは困難になります。今の日本で需要があるのは医療と介護であるのに、抑制政策ばかりで、国内の医療産業を潰していると言いたいのです。高い医薬品や医療機器はほとんど外国から入ってきて、貿易赤字は 4 兆円を超えています。なぜ、需要がある医療・介護にヒト・モノ・カネをつぎ込まないのでしょうか。経済の専門家ではありませんが、需要のあるところに投資をしないから経済が発展しないのではないかと思っています。企業の内部留保は 500 兆円を超え、個人資産も 2,000 兆円あり、世界一の対外純資産も 400 兆円を超えています。お金は、回ってこそ価値があると思っています。

ファイザーは世界の人々の健康に貢献するとともに莫大な利益を得ました。スイスは国際競争力ランキングで常にトップクラスです。スイスにはロシュやノバルティスといった大製薬企業があり、医薬品・化学は輸出の主力です。アジアの国々も高齢化していきます。高齢化では世界の最先端を行っている日本で、医療・介護産業を育てていけば日本の未来は明るくなると確信しています。

今年が、未来に希望が持てる年となることを祈念して新年の挨拶といたします。

年頭所感

日本医師会長　松本吉郎

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、年明けの寿ぎも束の間に、昼夜を分かたず、新型コロナウイルス感染症をはじめ、あらゆる医療の現場でご尽力いただいている会員、医療従事者の皆様には心からの敬意と感謝を申し上げます。

わが国の医療界が新型コロナウイルス感染症と向き合い始めて、丸三年の月日が経とうとしています。この間、会員の先生方におかれましては、発熱外来における診療やワクチン接種、あるいは通常医療の分担など多岐にわたる取り組みをいただくとともに、物心両面で筆舌に尽くしがたいご負担をおかけしてきたものと拝察いたします。

こうした医療従事者の献身により、わが国の新型コロナウイルス感染症による死亡率は諸外国と比べて極めて低く抑えられてきました。この事実は、世界に誇るべきものであると思います。

昨年はこれまでで最大規模となる「第七波」を経験しましたが、新たな変異株の出現、季節性インフルエンザとの同時期流行が予想されるなど、今後の動向はなお予断を許しません。

そのような中にあっても、全国の会員の先生方が医療の現場で培われたご知見をもってすれば、必ずやこの感染症を克服して穏やかな日常を取り戻し、明るい未来へと繋げていくことができるものと確信いたします。

新型コロナウイルス感染症に限らず、わが国の医療提供体制を支えさらに前へ進めていく原動力は、全国津々浦々で日々、患者さんと向き合っておられる会員の先生方お一人お一人の経験に裏打ちされた情報やご意見、ご提言の数々に他なりません。そして、このような経験知の総和が、学術専門団体である日本医師会のさまざまな施策や政策提言を形作っていくものと考えます。

日本医師会は昨年 11 月に「地域における面としてのかかりつけ医機能～かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて～（第１報告）」を公表しました。地域に根差して診療されている先生方には、自院での診療以外に、平日夜間・休日輪番業務などの「地域の時間外・救急対応」や、学校医・産業医活動などの「地域保健・公衆衛生活動」等を連携して行い、地域住民の健康を守るため、二次医療圏や市区町村等それぞれの地域を面として支えていただいています。「地域における面としてのかかりつけ医機能」は、医療機関間の連携とネットワークにより、さらに強く発揮され、そこから得られる膨大な知見は、わが国の医療提供体制を充実・発展させるうえでの貴重な財産となります。

日本医師会はこうした活動に深く感謝申し上げるとともに、引き続き全力で支援して参ります。併せて、国民の皆さんに対しても、地域医療が地域医師会及び会員の先生方の多大なるご尽力のもとに成り立っていることを広く知っていただくよう努めて参ります。

このような「面としてのかかりつけ医機能」を一段と高めるためには、医師会の組織強化が不可欠となります。その一環として、日本医師会では令和５年度より、現在臨床研修医に適用している会費減免の期間を医学部卒業後５年まで延長することといたしました。

この取り組みを通じて、より多くの先生方が医師会活動に参画しその重要性を体感いただくとと

もに、わが国の医療を支える担い手として、共に歩みを進めていただきたいと考えております。また、組織強化の取り組みは、三層すべての医師会が足並みを揃えることによって実効性が高まるものですので、地域医師会の先生方におかれましては、格段のご理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年６月、私は日本医師会会長に就任する際の所信表明において、会務運営の四つの柱として、「地域から中央へ」「国民の信頼を得られる医師会へ」「医師の期待に応える医師会へ」「一致団結する強い医師会へ」をお示しいたしました。いずれも今後の日本医師会の活動における重要な目標となるものですが、それらの大前提として、まず「国民の健康と生命を守ること」を所信の冒頭に申し上げました。

これは医師会として、また一人の医師として、最も基本的な責務であると考えております。医師会のすべての活動は、国民の健康と生命を守るという目標に向けたものでなくてはなりません。医師会の組織強化の取り組みも、自らの利益擁護のためではなく、わが国の医療のあり方を誤りなき方向に導くための大局的視点に立って進めることが肝要です。

医療は、患者やその家族と医療提供者との相互の信頼関係を礎として成り立つものです。国民の健康と生命を守るためには、まず、診療の現場における患者との信頼関係が揺るぎないものでなくてはなりません。残念なことに昨年も、地域医療に情熱的に取り組まれていた医療従事者の方々が、診療現場において暴力の犠牲となる事件が起こりました。医療従事者が安心して医療に打ち込むことができるよう、医療現場の安全確保対策を進めることは喫緊の課題ですが、信頼関係に根差した医療を取り戻すことも、わが国の医療に課された重要なテーマであると考えます。

この他にも、医師の働き方改革に向けた取り組みや、次の感染症への対策、次期医療計画と介護保険事業計画等の策定、さらには診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の「トリプル改定」に向けた社会保障財源の確保など、医療界を取り巻く重要課題は山積しています。これらの課題の解決に向けては、関係当局をはじめ政府関係者に対して、医療現場の実情や課題を正確にお伝えし、科学的根拠に基づいて自由に議論できる関係性を築き維持していくことが不可欠です。今後も会員の先生方からいただいた数々のご提案を国の医療政策に反映できるよう精一杯努めて参ります。

医療の現場に生起する課題が複雑、多様化するに従い、日本医師会に期待される役割も多岐にわたって参りました。対応の迅速さやよりきめ細やかな柔軟さもこれまで以上に重要となっています。今年も一つ一つの課題に対して、日本医師会の総力を挙げ、兎のような素早さと勢いで取り組んで参る所存です。

新しい年が会員の先生お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭にあたってのご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭所感

山口県知事　村岡 嗣政

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年がより良い年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

山口県医師会の会員の皆様には、保健医療行政をはじめ県政全般にわたり、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策におきましては、これまでも、医療関係者の皆様の御尽力により、検査・治療体制の構築をはじめ、ワクチン接種の推進や、自宅療養者へのサポートなど、県民の命と健康を守るための取組を進めることができ、幾度もの感染拡大の波を乗り越えることができました。改めて深く感謝を申し上げます。

さて、県では、本格的な少子高齢化社会を迎え、コロナ禍で生まれた新たな課題や、デジタル化をはじめとする急速な社会変革への対応など、県政を取り巻く環境が大きく変化する中、『安心で希望と活力に満ちた山口県』の実現を目指し、「安心・安全」「デジタル」「グリーン」「ヒューマン」の４つの視点を踏まえ、新たな県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」を策定したところです。

こうした中、県民誰もが生涯を通じて、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、限られた医療資源の中で、地域にふさわしいバランスの取れた医療提供体制を構築することが重要です。

このため、新たなプランでは、重点的に政策を進めるプロジェクトの一つである「安心を支える医療と介護の充実･強化プロジェクト」において、コロナ禍の経験を踏まえた新興・再興感染症の感染拡大に備えた体制の強化や、地域医療を支える医療人材の養成・確保、医療機関の連携推進などに取り組んでいくこととしています。

また、「結婚、妊娠･出産、子育て応援プロジェクト」では、周産期医療体制の強化や、小児救急医療電話相談の運営、小児の病態に応じた医療提供体制の整備などにより、出産・子育てに関する医療面の不安軽減を図り、社会全体で子どもと子育て世帯を支える取組を推進してまいります。

さらに、今年は、本県における総合的な保健医療提供体制の指針となる「第８次山口県保健医療計画」を策定していく重要な年となります。次期計画でも、引き続き、医療関係団体の皆様の御意見をお聞きしながら、県民のニーズに即した良質で適切な保健・医療を提供できる体制整備に向けて、策定を進めてまいります。

もとより、本県の新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、こうした保健医療施策を着実に進めていくためには、山口県医師会の皆様のお力添えが不可欠と考えていますので、御支援と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

今年の干支は､「癸卯（みずのとう）」です。「癸（みずのと）」は、「揆（はかる）」と同じく、「物事の筋道を立ててはかる」という意味があり､「卯（う）」は兎の飛び跳ねる様子から「飛躍」､また「茅（かや）」と同じ意味を持ち、子・丑・寅と伸びてきた植物の芽や葉が繁茂する様子を表し、筋道を立てながら、繁栄につながる様子を思わせます。

私は、山口県医師会の皆様をはじめとする関係団体や市町、県民の皆様と連携・協働し、未来に向けた県づくりへ筋道を立てて積極果敢に挑戦し、次のステージへ飛躍する年にしたいと考えておりますので、引き続き、皆様の御支援、御協力を賜りますよう、重ねてお願いいたします。

結びに、山口県医師会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。